

中国系移住者に関する比較社会学的研究（1）

ーオーストラリア・メルボルンにおけるエスニック・コミュニティ調査を中心にー

○法政大学 田嶋 淳子

山東師範大学 趙 衛国

1 目的

改革・開放以来の 35 年、中国からの新たな移住者の流れは受け入れ社会に従来とは異なるエスニック・コミュニティを形成した。オールド・チャイナタウンとは異なる様相をそれぞれの受け入れ社会にもたらしている。彼らはニューカマーズを対象とするエスニック・メディア、エスニック・ビジネスを立ち上げ、中文学校を作り、ボランティア・アソシエーションを従来のものから新たな様相に塗り替えつつある。また、母国との関係においても新たな国境を越えた社会空間を形成している。こうした動きは東アジアおよび移民国家であるオーストラリア等の諸社会の変容過程に大きな影響を与えている。彼らは日本、韓国において最大のエスニック・グループを形成しており、オーストラリアにおいても近年もっとも増加傾向の著しい移民グループの一つとして今後の動向が注目される。そこで、本報告では、中国系移住者コミュニティを支える第 1 世代ならびに第 2 世代の現状と意識を調査結果から明らかにする。

2 調査方法

2012 年 3 月と 8 月、メルボルンにおいてエスニック・メディア、ボランティア・アソシエーション（留学を中心とする 1990 年代以降の移住者）への半構造化インタビューを実施した。また、中文学校を訪問し、インタビュー調査および質問紙調査を実施した。学校関係者に対する半構造的面接調査および 7 年生から 12 年生まで（13 - 18 歳、日本の中学 1 年から高校 3 年までに相当）210 人名に対する質問紙調査（回収 194 部、回収率 92%）である。

3 分析結果

オーストラリアへのニューカマーズの流入は主に 1980 年代後半以降であり、日本への留学生受け入れの時期から若干遅れて始まっている。これらの流れは日本における語学就学のケースと同様に、上海出身者を中心に始まった。この時期に移動した人びとへのインタビューにおいて、日本への渡航が難しくなった 1989 年の天安門事件前後にオーストラリアへの渡航が開始している。これらの人びとがニューカマーズの中核となり、エスニック・メディア、エスニック・ビジネスならびに中文学校の創設が 1990 年代前半に始まっている。新たなエスニック・コミュニティ形成のプロセスはまさに日本社会における同時期に進行しているのである。第 1 世代の中心が上海出身、中高学歴層にあり、現在は 50 才代から 60 才代になる。文化・メディア産業を中心としてコミュニティ形成の中心をなしていることが明らかとなった。

4 結論

比較という視点から捉えたとき、1980 年代後半、中国政府が私費留学を名目とする海外への出国を認めて以後、最初の流れは日本においても、オーストラリアにおいても上海出身者であった。オールド・チャイナタウンが広東省出身者中心であるのに対し、この 30 年来の流れは中国、台湾および東南アジア華僑・華人世界との繋がりという面でも新たな様相を移民社会にもたらしている。ただし、多文化主義政策にもとづく中文学校の拡大とともに、メルボルンにおけるコミュニティが拡大している点は注目される。

付記：本報告の一部は学術振興会科学研究費（課題番号 22530574：研究代表者田嶋淳子）の助成を受けた。